

2022 年度小委員会活動成果報告

(2023 年 1 月 17 日作成)

小委員会名	雨水活用技術規準改定小委員会	主 査 名：宋 城基 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (企画刊行運営委員会)	委員長名：秋元孝之 主 査 名：持田 灯
設 置 期 間	2021 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>2020 年 6 月に新たな「水循環基本計画」が閣議決定され、資源としての「雨水（あまみず）」の位置付けや、調査研究の必要性、民間レベルでの活動の推進がより強く打ち出されており、一層の雨水活用の普及やその関連技術の要求が多くなると予想される。また、昨年度発行した AIJES-W0002-2019「雨水活用建築ガイドライン」との整合性を図ることや AIJES-W0003-2016「雨水活用技術規準」における概念や計算方法および評価手法の改良の要望が多い。このことから、改訂版の刊行を行う。</p> <p>初年度：現在技術規準の内容再確認、改訂項目・箇所検討 改訂箇所抽出及び決定および執筆者などの決定 詳細な改定内容について整理まとめ・調査・分析・計算・改良</p> <p>2 年度：改定案（DS）完成、査読・パブリックコメント、改訂版の発行、講習会</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：宋城基（広島工業大学） 幹事：笠井利浩（福井工業大学）、大西和也（雨水貯留浸透技術協会）、尾崎昂嗣（アールアンドユー・レゾリューションズ） 委員：青木一義（西原衛生工業所）、小川幸正（雨水まちづくりサポート）、江 暁歆（千葉大学）、平山 由佳理（工学院大学）、向山雅之（竹中工務店）	
設置 WG (WG 名：目的)		
2022 年度予算	120,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	12 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 改定案（DS）完成
委員会活動の問題点・課題	特になし

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2022 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>B</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>2021 年度に改定作業は一通り終わったものの、前主査や前作成者による改定内容合の意見交換を経て、もう少し、現在委員会メンバーによる検討が必要となった。そのため、目的達成期間の2年目(2022年度)には刊行ができない状況となった。2022年度は改定内容の再検討を行い、ほぼ改定作業の最終段階に到達している。なお、すでに1年延長を申請しており、来年度(2023年度)には、査読などを経て発刊につなげる予定である。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。